

# (国) 福島大学

人間発達文化学類

スポーツ健康科学コース

キャリア教養学科 (安積黎明高校出身)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

短大入学時から考えていました。高校の時第一志望大学の受験に失敗し、浪人するか悩んでいたところ、先生に「短大から四大への編入制度がある」と教えてもらい、もう1度チャレンジしてみようと思ったからです。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年後期から編入志望者向けのキャリアデザインが始まります。そこでは大学研究や志願理由書の書き方、小論文や面接対策など編入試験に必要なことを学びます。また、英語に関しては1年前期から編入英語の授業を履修しました。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

英語は1年前期から2年後期まで編入英語の授業を履修し、志望校の過去問演習は2年前期後半から個人的に先生に添削をお願いしました。小論文や面接の対策は2年になってから始めました。しかし、直前に焦ることがあったので、もっと早く取り組めばよかったと思っていました。早く始めることに損はないので、何事もできるだけ早く取り掛かるべきです。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

英語に苦手意識があったため、英語の学習に力を入れました。特に福島大学は学科試験の成績に重点を置くため英語の学習を第一にしました。毎授業の単語テストや課題、自分で購入した参考書などで学習しました。また、志望校の過去問を解いたら先生に添削をお願いして、自分ができなかった部分を解きなおしました。

Q. 聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

聖母の授業は先生の講義を聴く授業ばかりではなく、プレゼンテーションやグループディスカッションなどアクティブラーニングが取り入れられているので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力などが身につきました。また、様々な分野を学べるので幅広い教養を得られました。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

受験に向けて頑張る過程が重要ということです。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①受験に失敗したことを引きずって短大でうまくやっていたら不安でした。

②短大生活を楽しみながら、進路実現に向けて頑張ろうという気持ちでした。

③緊張と不安でいっぱいでした。

④とてもうれしく、約1年半頑張ってきてよかったと思いました。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

何事も早め早めに取り組むことが大切だと思います。大学研究、特別研究のテーマ決め、志望理由書添削依頼など編入試験のためには学科試験対策以外にやるべきことがたくさんあります。試験が近づくと必然的に焦りが出てくるので、できることは早めに行い、試験直前には学科試験の対策に集中できるようにするとよいと思います。

